



2026年5月12日

各 位

会 社 名 株式会社富山第一銀行
代 表 者 名 取締役頭取 野村 充
(コード番号7184 東証プライム市場)
問 合 せ 先 執行役員 藤 健二
総合企画部長
(TEL. 076-424-1219)

長期ビジョン「ファーストバンク VISION10」のアップデートに関するお知らせ

当行は、2026年5月12日開催の取締役会において、2023年4月～2033年3月の10年間の計画期間とする長期ビジョン「ファーストバンク VISION10」について、一部アップデートを行うことを決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 経緯

当行は、長期ビジョン「ファーストバンク VISION10」(2023-2032年度)のもと、「お客さまファースト」を基本方針に10年後の「あるべき姿」を掲げ、バックキャストの視点で各種施策に取り組んでまいりました。

今回、金利のある世界への変化をはじめとする経営環境の変化や業績推移等を総合的に判断し、一部内容をアップデートするものです。

2. 概要

- VISION10で掲げる『お客さまファースト』の方針のもと、『地域の成長の一翼を担い、共に価値を創造する銀行グループ』として、お客さまの成長に向けたストーリーの実現と地域経済の持続的な成長への支援を一層加速させることで、当地における存在価値を高めていく。
- 1st STAGEの3年間で積み上げてきた自己資本と有価証券運用の収益を、グループとして提供するサービスの高度化と地域経済への更なる貢献に向けた成長投資へ積極的に投下する。
- 上記取組みを通じ、今回アップデートする計数目標の達成を目指す。

詳細につきましては、別紙資料をご参照ください。

以 上

本件に関するお問合せ先
総合企画部 経営企画グループ 堀
(TEL. 076-424-1219)

長期ビジョン

「ファーストバンク VISION10」

内容の一部アップデート

2026年5月12日

① アップデートの背景



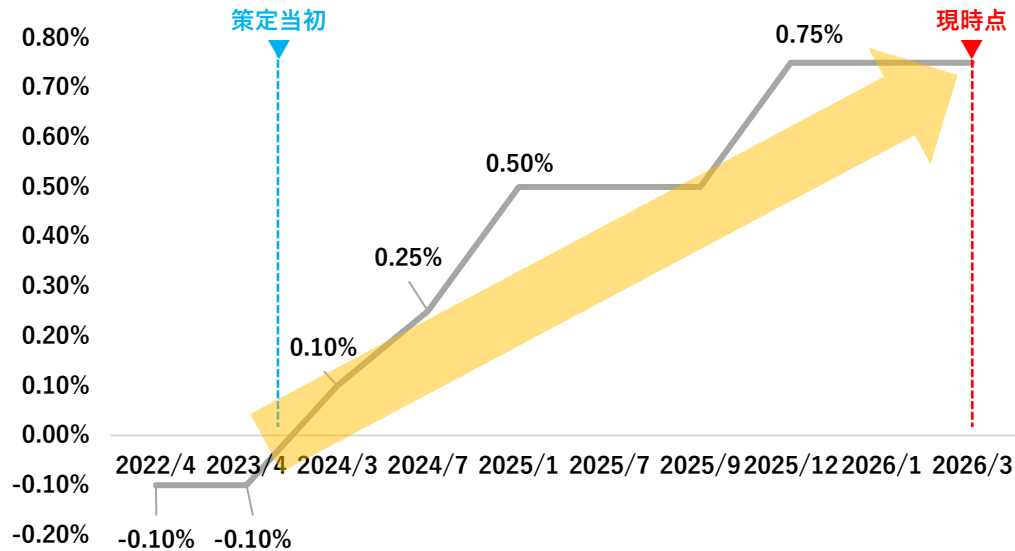
アップデートの背景【外部環境】

外部環境

金利のある世界への変化

✓ 政策金利は、策定当初(2023/4月)のマイナス環境下から、2024/3月にはプラスに反転、2025/12月には0.75%まで引き上げられるなど、『金利のある世界』へと変化している

【政策金利の動向】



【その他の指標】

	2023.3.31 (策定前)	2026.3.31
10年国債金利	0.389%	2.366%
為替	133.30円	159.75円
日経平均株価 (終値)	28,188.15円	51,063.72円

地域金融力強化プラン (2025年12月 金融庁公表)

✓ 地域金融機関は、資金繰り支援のほか、企業や社会全体がその時々課題に適切に対応し、人口減少等の社会変化も踏まえて変革していくための後押しを行なうことが求められている



地域課題の解決



地域企業の成長支援

地域金融力強化プラン

- 1 内外のプレイヤーとの連携を通じた中堅企業等への成長支援
- 2 M&A・事業承継や経営者等の人材確保の支援
- 3 早期の経営改善や円滑な事業再生等に向けた支援
- 4 企業価値担保権も活用した事業性融資の促進
- 5 スタートアップ企業等の成長企業の資金調達支援
- 6 経営者保証に依存しない融資の促進
- 7 地域企業へのDX支援の促進
- 8 地域課題の解決
- 9 地域活性化の取組の促進
- 10 投資専門子会社を通じた資本性資金の供給促進

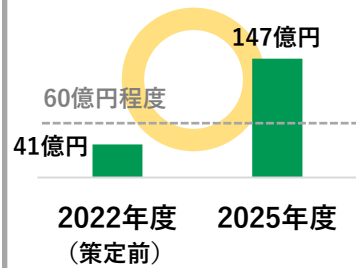
アップデートの背景【内部環境／弊行実施の中小企業動向調査から見えるお取引先の課題】

内部環境

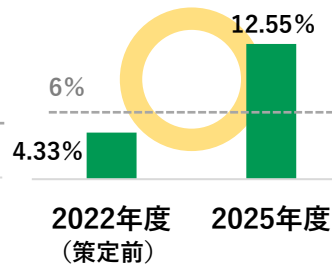
1st STAGEで掲げた計数目標の早期達成

- ✓ 資金利益の増加、バーゼルⅢ完全適用を見据えた更なるリスクテイク余力の確保に資する有価証券評価損益実現化等により、当初1st STAGEで掲げた計数目標はいずれも前倒しで達成

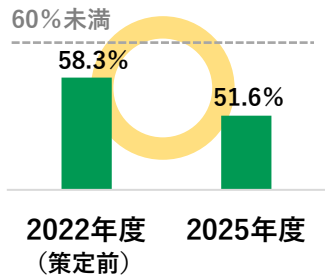
当期純利益



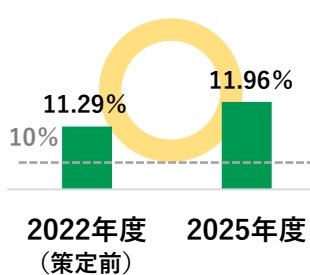
株主資本ベースROE



コアOHR



自己資本比率



じゅうだん会への移行方針決定

- ✓ 2025/11月、次世代勘定系システムの「じゅうだん会」移行方針決定を公表 (2030年中の移行を予定)

富山第一銀行



弊行実施の中小企業動向調査から見えるお取引先の課題

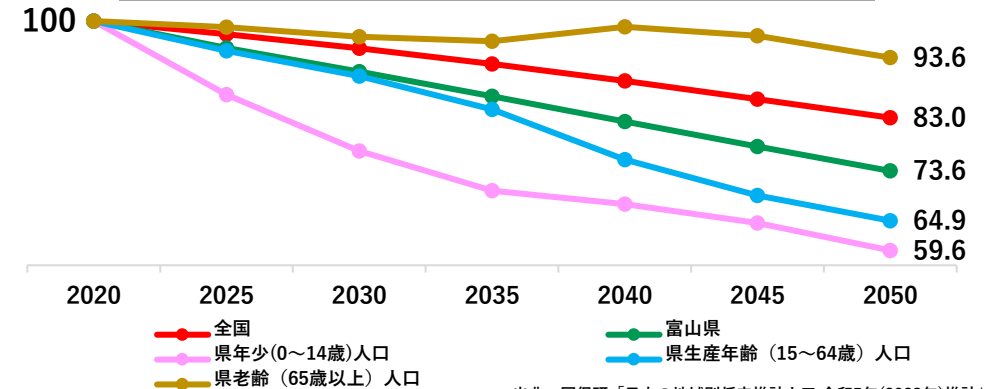
構造的な事業環境の変化への対応

- ✓ 経営上の課題として「人材人手不足」「原材料高」「売上受注不振」「人件費高騰」が近年常態化
- ✓ 中長期的には、地域人口減少をはじめとした構造的な事業環境の変化への対応が課題

中小企業動向調査(※)で上位に挙げられる課題



富山県の人口推計予測 (2020年 = 100)



② アップデートの内容



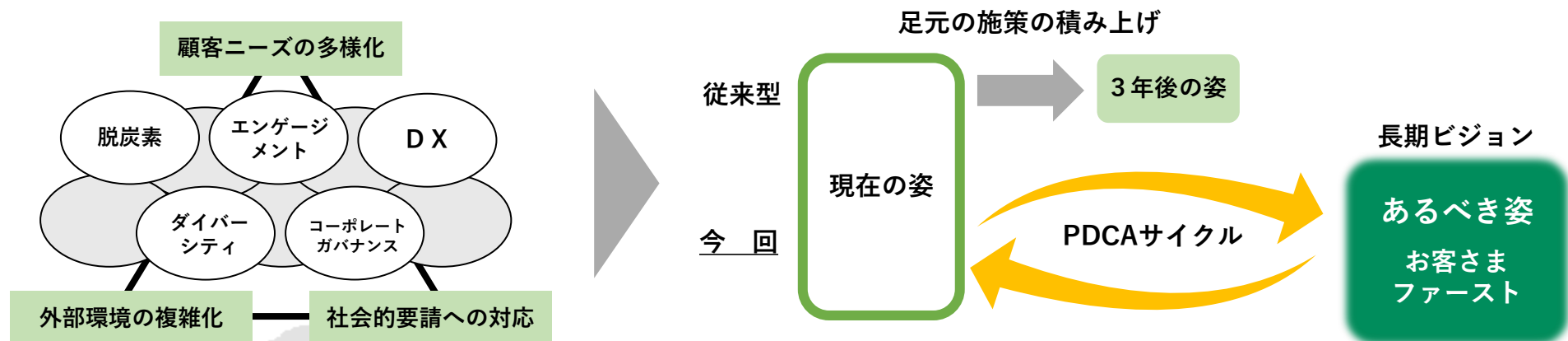
長期ビジョン「ファーストバンク VISION10」（2023年4月～2033年3月）

地域の成長の一翼を担い
共に価値を創造する銀行グループへ成長する
～お客さまファーストの銀行へ～

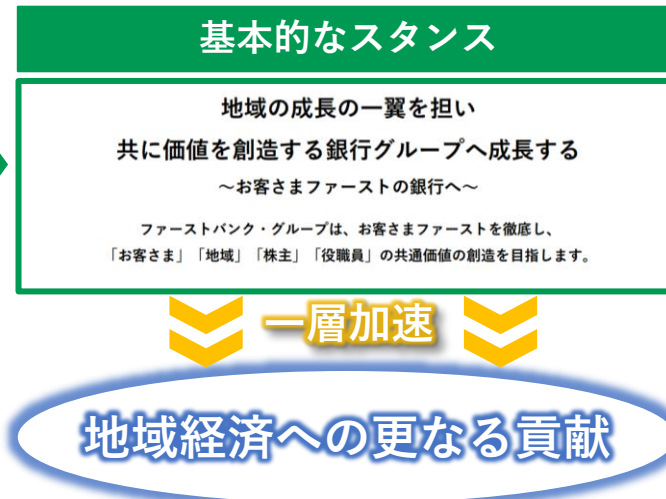
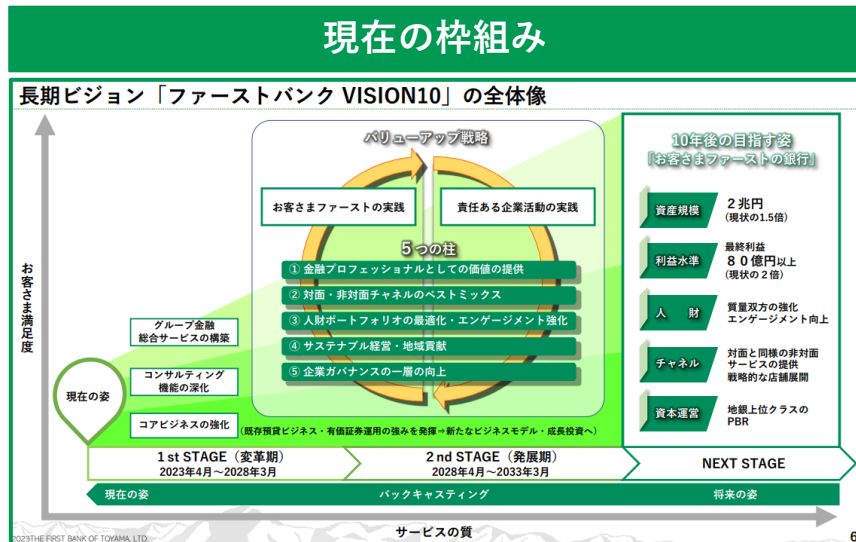
ファーストバンク・グループは、お客さまファーストを徹底し、
「お客さま」「地域」「株主」「役職員」の共通価値の創造を目指します。

VISION10の前提となる考え方

- 脱炭素・DXの進展に加え、コロナ禍後の産業構造・お客さまの行動様式等、私たちを取り巻く社会環境は加速度的に変化しています。
- これに伴い、お客さまの価値観やニーズは多様化し、足元で対処すべき課題は複雑化かつ高度化しています。
- このような環境下において、当行グループが持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するためには、3年間で足元の施策を積み上げるのではなく、長期的な目線で『当行のあるべき姿』を思い描く必要があると考え、10年間の長期ビジョンを策定いたしました。
- 長期ビジョンを起点に、バックキャストの視点で各施策を展開することで、『当行のあるべき姿』への到達を目指してまいります。
- なお、中長期的な時間軸の中、見通し難い社会情勢や経営環境の変化が生じた際には、目標や戦略、具体的な施策を臨機応変にアップデートすることで、不確実性の高まる時代に適応する経営を目指します。



アップデートの方向性・基本方針



基本スタンス・考え方
1st、2nd STAGE等の
枠組み自体は**不変**

計数目標の達成

方向性

- ① 計数目標は、7年後の2nd STAGE目標に一本化し、アップデートする
- ② 1st STAGEの残り2年間と合わせ、2026年度～2032年度の7年間で2nd STAGEとして取り組む

基本方針

- ① VISION10で掲げる『お客さまファースト』の方針のもと、『地域の成長の一翼を担い、共に価値を創造する銀行グループ』として、お客さまの成長に向けたストーリーの実現と地域経済の持続的な成長への支援を一層加速させることで、当地における存在価値を高めていく
- ② 1st STAGEの3年間で積み上げてきた自己資本と有価証券運用の収益を、グループとして提供するサービスの高度化と地域経済への更なる貢献に向けた成長投資へ積極的に投下する

アップデートのサマリー

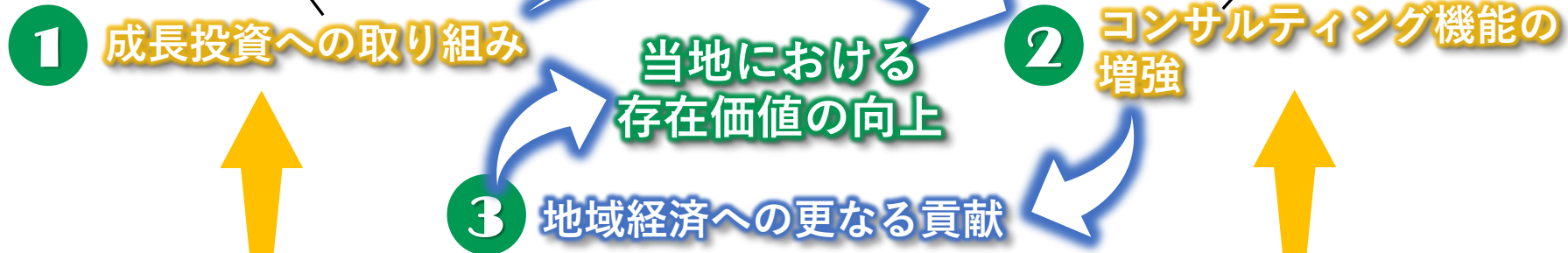
- 『お客さまファースト』の方針のもと、地域経済の持続的な成長に向けた支援を一層加速させることで、当地における存在価値を高めていく



2nd STAGE (2026~2032年度)

- 強みである『財務の健全性』と『積極的な有価証券運用』を活かし資本と収益を成長投資に投下していく

- 成長投資によりグループとして提供するサービスの幅を広げることでコンサルティング機能を増強する



1 成長投資への取り組み

- 地域課題の解決に向け、資本と収益を地域経済の持続的な成長および組織の強化へ積極的に投下する



2 コンサルティング機能の増強

■ 抜本的な業務・営業店改革とインオーガニック投資等により、コンサルティング機能を増強する

成長投資

生成AI・IT資源を活用した業務改革

営業店事務・業務プロセスの合理化
(IT投資・じゅうだん会への移行等)

コンサルティング人員の増加

営業店の変革

営業店を『事務拠点』から
『コンサルティング拠点』へ

顧客接点の増加

付加価値の高いサービスの提供

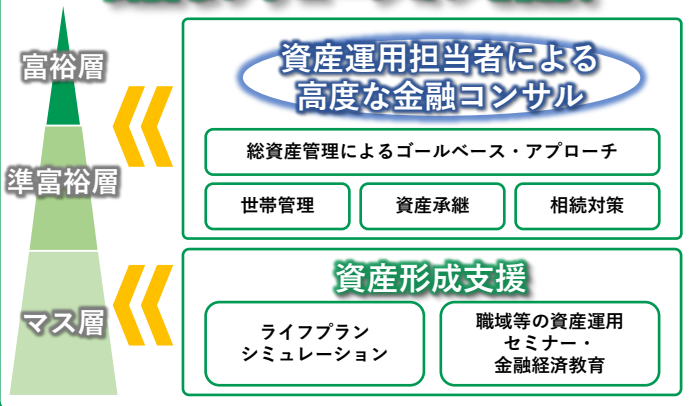
人的資本経営の加速と
インオーガニック投資の実践

提供できるサービスの増加

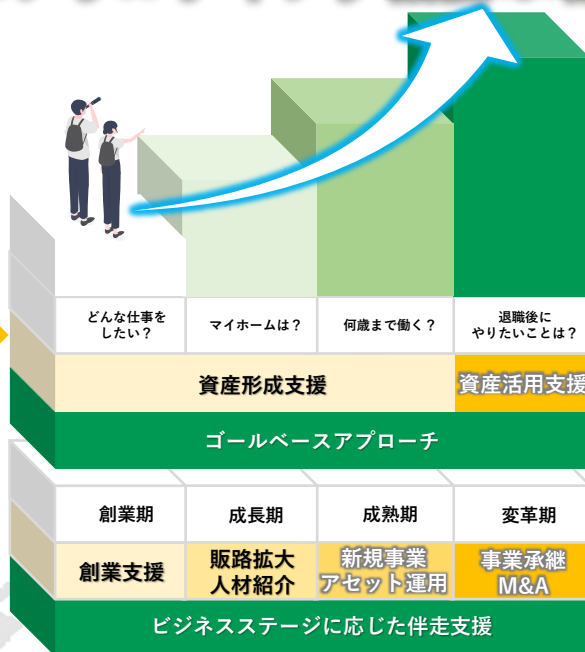
コンサルティング機能の増強

総資産コンサルティングの高度化

対面提案を強化し
高度なソリューションを提供



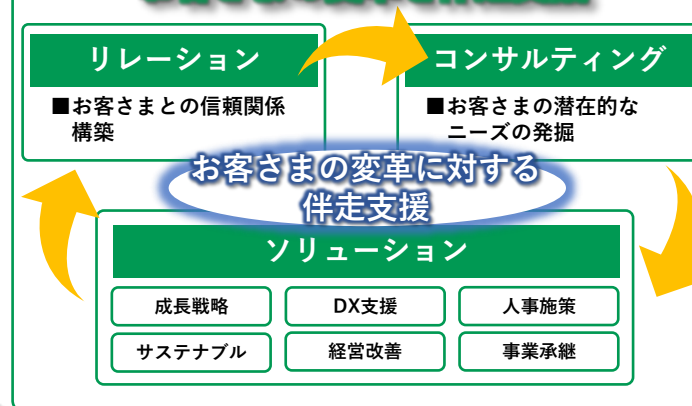
個人のお客さま



法人のお客さま

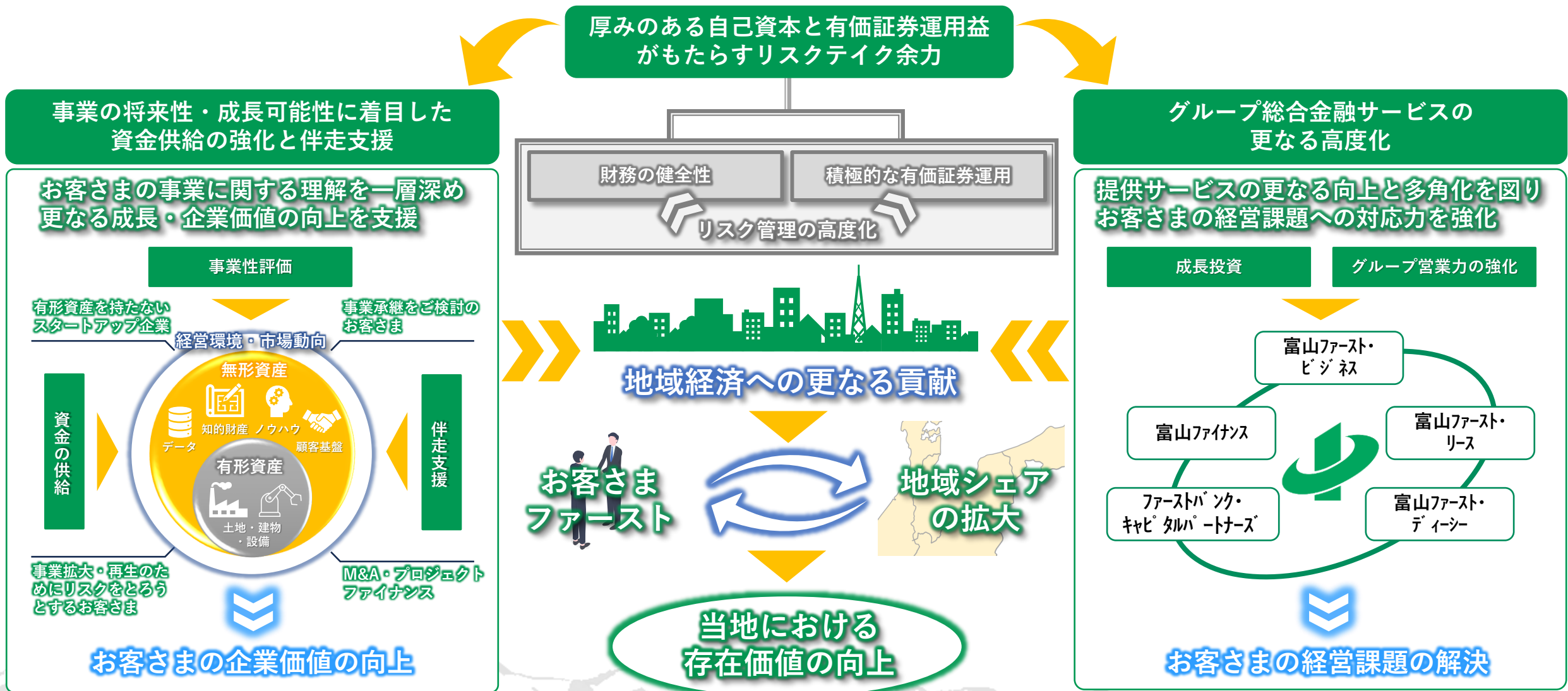
オーダーメイド型のコンサルティング

コンサルティング機能を強化し
お客さまの変革を伴走支援



3 地域経済への更なる貢献

- 事業の将来性に基づく資金供給と伴走支援、グループ総合金融サービスの更なる高度化を通じた地域経済への支援を加速させ、当地における存在価値を高めていく



計数目標のアップデート

■ 地域経済への更なる貢献の結果として、一層の企業価値向上と収益増強の実現を目指す

		当初		実績	アップデート後	
		1st STAGE (2023~2027年度・単体)	2nd STAGE (2028~2032年度・単体)	2025年度 (連結)	2nd STAGE (2026~2032年度・連結)	
計数目標	資産規模	—	2兆円	1.7兆円	資産規模	2兆円
	利益水準	60億円程度	80億円以上	150億円	利益水準	160億円以上(※)
	株主資本ROE	6%	—	12.26% (純資産ROE 8.57%)	株主資本ROE	10% (純資産ROE 8%)
	コアOHR	60%未満	—	51.65%	コアOHR	60%未満
	自己資本比率	10%	—	12.30%	自己資本比率	10%
その他の目指す姿	人財	—	質量双方の強化 エンゲージメント強化	—	人財	人財ポートフォリオの最適化 職員のエンゲージメント向上
	チャネル	—	対面と同様の 非対面サービスの提供 戦略的な店舗展開	—	チャネル	リアル・デジタルチャ ネルのシームレスな サービス提供
	資本運営	—	地銀上位クラスのPBR	—	資本運営	地銀上位クラスのPBR

(※)アップデート後の利益水準

1st STAGEで積み上げた自己資本と積極的な有価証券運用の収益を成長投資へ投下することで、提供サービスの深度・幅の拡大を図る。更なる『お客さまファースト』の実践を通じ、本業収益の増強と収益構造の変革を目指す。

本件に関するご照会先

(ご注意事項)

- 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものです。特定の有価証券等の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された内容の全部または一部は予告なしに修正または変更される場合があります。
- 本資料には将来的な業績見通しに関する記述がございます。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。

 富山第一銀行 総合企画部 経営企画グループ

TEL 076-424-1219

E-mail souki@first-bank.co.jp

URL <https://www.first-bank.co.jp/>